

令和3年度 京都府立農芸高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） 計画段階

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 目指す教育 質実剛健の校訓のもと、高等学校における普通教育と農業に関する専門教育を施すことにより、社会人基礎力を養い、農業教育で培った知識・技術を活かし、生命の尊厳を尊び、農業の発展及び環境保全に貢献する意識と実行力を備えた、社会の発展に寄与する人材を育成する。</p> <p>2 目指す学校 京都府農業教育の唯一の専門高校として、地域や関係諸機関等に信頼される学校づくりを基本とし、 (1)社会から求められる人材を育成する学校 (2)農業や農業に関連する分野で活躍する職業人を育成する学校 (3)農業専門高校にふさわしい高度な専門性を追求する学校を目指す。</p> <p>3 目指す生徒 (1)夢と希望を持ち、自ら考え行動する生徒 「主体的に学び考える力」 (2)自他の生命を尊び、社会でつながる生徒 「多様な人とつながる力」 (3)質実剛健の気風を培い、挑戦し続ける生徒 「新たな価値を生み出す力」</p>	<p>1 成果 (1)新型コロナウイルス感染拡大防止対策とともに生徒の実態に応じた主体的・対話的で深い学びと基礎・基本の定着を軸とする学力向上と組織的な生活指導、寮教育ならびに積極的に計画的な進路指導により希望進路の実現に取組んだ。 (2)グローバルGAP継続認証や農芸マルシェをはじめ、農業専門高校としての特色ある活動を推進し、農業クラブ専門部活動と積極的な資格取得などにより生徒の達成感の醸成に取組んだ。 (3)新高等学校学習指導要領の趣旨と農業の6次産業化、スマート農業の導入、グローバル化を軸とする3学科8コース体制の学科改編を行い、1年生後半からのコース別専門学習及びACCESSを実践した。 (4)教育実践状況を積極的に広報するとともに、ICTを活用した保護者対象の学校アンケートを実施し、教育ニーズの受信に努め、教育活動に対する地域、保護者の理解の促進に取組んだ。</p> <p>2 課題 (1)生徒の適正な規範意識の醸成と自主的な学習習慣の定着によって、より高い目標を目指し、希望進路実現に自ら努力させ、社会的自立に向かわせること。 (2)地元地域や中学校との適切な連携や教育活動の発信によって、教育機関としての信頼を高め、募集定員を充足する志願者を確保すること。 (3)自主的、自律的な課外活動を推奨し、部活動、農業クラブ専門部のさらなる活発化と適切な指導により、規律ある生徒集団の形成を目指す取組を一層推進すること。 (4)大学・企業・関係機関と連携した専門性の高い研究や府農林水産部、地元行政機関の事業を活用した農業の担い手育成に関わる活動を継続すること。</p>	<p>1 学校経営主題 「新しい農芸への挑戦を加速化しよう・目指せ Next Stage!!」 2 学校経営の重点事項 (1)主体的・対話的で深い学びの実践による基礎・基本の定着と学力の向上 ①主体的・対話的で深い学びを目指し、授業・実習におけるICTの積極的導入等指導方法の工夫・改善と基礎的・基本的な事項の確実な定着により、学力向上を目指す。 ②教科横断的な教科活動に取り組むことにより、学科のねらいやコースの目指す生徒像の実現に寄与するとともに、農業専門教育の活性化に資する。 ③授業改善のための生徒による授業アンケートを継続実施するとともに、各教科・学科・コースにおいて適切な評価基準を整備し、観点別評価による評価・評定を行う。 ④農業専門高校としての特色ある活動の充実と生徒の自己肯定感の醸成 ⑤改編の趣旨である「6次産業化」、「スマート農業」、「グローバル化」を各コースの教育内容に組み入れ、最先端農業への挑戦を加速化させる。 ⑥京都府立大学生命環境学部との連携協定を具現化する取組を推進し、農業専門高校にふさわしい大学と連携した専門教育モデル構築に挑戦する。 ⑦農業クラブ活動における「プロジェクト研究活動」を計画的に実践し、意見発表、農業鑑定競技とともに、日本学校農業クラブ全国大会入賞を目指し、指導を行う。 (2)積極的なキャリア教育の実践による生徒の個性・能力に応じた進路実績の構築 ①3年間を見通した進路学習、インターンシップ等により、適正な勤労観と職業観を計画的に育成する。 ②地域、企業、大学等と連携し、外部人材を積極的に活用するなど将来の職業人としての高い倫理観と社会人基礎力を培う。 ③府農林水産部、関係機関との連携による各事業を継続・活用し、京都府の農業や関連産業の振興に寄与する将来の担い手育成に取り組む。 (3)保護者の理解と関係機関との連携を軸に、全ての教育活動を通して生徒密着型・問題解決型の生活指導を組織的に推進する。 ①学校生活、寮生活をとおして適切な倫理観と行動規範を身につけさせ、自立心、協調性、責任感と道徳実践力を育むなど全人的な教育活動を推進する。 (4)あらゆる教育活動をおとした人権教育の推進と安心・安全の確保 ①新型コロナウイルスをはじめ感染症拡大防止に係る新しい行動様式・生活様式を守り、自他の人権と生命を大切に、良識ある公民として共生社会を主体的に生きる力を醸成する。 ②特別な支援を要する生徒の教育ニーズを適切に把握し、関係機関と適切に連携し、組織的な合理的配慮による特別支援教育を推進する。 ③全ての教育活動において事故等の未然防止とともに、安心・安全の確保に努める。 (6)信頼される開かれた学校づくりの推進 ①日頃の学習成果発表の場を数多く設定し、生徒の姿で教育実践を発信することにより、教育成果を広く府民に公開し、教育機関としての信頼を得る。 ②教育後援会、船南同窓会、PTAと一体となり、創立40周年記念事業実行委員会を立ち上げ、令和4年度末を事業完了の時期と定め、取組を進める。 ③新聞広報、南丹市CATVなどによる教育活動情報を積極的に発信と教育ニーズの受信に努めるとともに、中学校との適切な連携により定員を充足する志願者を確保する。</p>

分掌／教科名	評価領域(業務領域)	重点目標	具体的方策(実践項目)	評価	成果と課題
管理職	組織運営	主体的・対話的で深い学びの実践による基礎・基本の定着と学力の向上	生徒による授業アンケートを授業改善に活かすとともに、適切な評価基準を整備し観点別評価による評価・評定を行う。教科横断的な教科活動やICTの積極的導入等により指導方法の工夫改善を図る。		
		農業専門高校としての特色ある活動の充実	学科改編の趣旨を各コースの教育内容に組み入れ、最先端農業への挑戦を加速化させるとともに、大学との連携協定を具現化する取組を推進し、農業専門高校にふさわしい大学と連携した専門教育モデル構築に挑戦する。		
		信頼される開かれた学校づくりの推進	教育実践、成果を生徒の姿で積極的に発信するとともに、志願者確保に向けた取組に努める。関係団体との連携を図り、創立40周年記念事業の取組を推進する。		
事務部	学習環境	就学支援金をはじめとする援護制度の周知徹底	その都度速やかに教室掲示プリントを配布し、案内もれがないようにする。該当者には期限内に書類が提出できるよう丁寧な対応、支援をする。学校預かり金延滞等も含めて担任と密に連携し、問題が生じた場合には早期に解決を図る。		
		学校予算の効率的な執行	学校運営費、実験実習費の枠にとらわれず学校運営に支障のないよう経費節減を行う。また、産業教育デジタル化事業や校内の老朽箇所の修繕等を計画的に進めていく。		
教務部	学習指導	効果的な教育活動ができる学習環境の整備	規律ある授業環境を整えるとともに、情報機器の整備や学校図書館・校務システム等の効果的な活用を推進する。		
		学科改編及び新学習指導要領に伴う学習と評価の改善	授業を通じた基礎学力の定着や、学習意欲向上を目指したACCESSの効果的な指導方法を検討する。また、新学習指導要領及び観点別評価についての研究と準備を推進する。		
	情報発信	教育活動の魅力化と活発な情報発信	ホームページの更新など、本校の教育活動を広く発信する機会を整えるとともに、計画的なオープンスクールと中学校訪問を通して本校の魅力を中学生・関係者へ発信する。		
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	全教職員によるあらゆる教育活動を通じた生活指導・人権教育を徹底するとともに、マナーを向上させることで規範意識と社会人基礎力を高める。		
		いじめ等の問題行動の未然防止	生徒の実態把握に努め、生徒密着型・問題解決型の生活指導により問題行動の未然防止に努める。		
		生徒会活動・部活動の活性化	加入率、継続性を高め、達成感・充実感を得られる部活動・生徒会活動を展開する。		

進路指導部	進路指導	キャリア教育の推進	インターンシップの活性化や卒業生講話の実施		
		学力の向上	進学セミナー、基礎学力補習、学習合宿、一般常識を始めとした基礎学力を充実させる。		
		社会人基礎力の育成	日常の指導に加え、外部講師を活用して、マナーや職業観を身に付けさせる。また、手帳を活用して、社会人基礎力のひとつである自己管理能力を涵養する。		
		クラウドシステムの機能をさらに活用する。	生徒本人との連絡や資料の配布、保護者連携に生かす。		
保健部	健康安全教育	自分の身体に関心を持ち、健康を意識する生徒を育成する。	・健康診断や検診の円滑な実施と、その結果をふまえた治療率の向上をはかる。 ・3年間の計画的な保健学習の内容と時期を検討し、取り組みの充実をはかる。 ・感染症拡大防止についての取り組みと啓発を行い、生徒一人一人への意識付けを行う。		
	特別支援教育	特別支援教育の充実をはかる。	・特別支援教育についての正しい理解と認識を深め、生徒の的確な把握に努める。 ・課題のある生徒に対して特別支援会議と連動しながら、定期的に特別支援コーディネーター連絡会議を開催する。 ・支援を要する生徒に合理的な配慮が施せるよう、スクールカウンセラーや専門機関とも連携する。		
	校内美化	よりよい学習環境の維持と向上を目指す。	・安心安全な環境の維持のため、校内の安全点検を定期的に行う。 ・清掃活動の活性化や保健委員の積極的活用など、校内美化の啓発・改善に努める。 ・ゴミの分別の徹底など校内美化に対する意識向上をはかる。		
農場部	農場管理・運営	新学科に円滑に移行させる適切な農場運営	学科・事務部と連携し、必要な経費の確保に努め、より効果的な実験・実習を展開する。 「6次産業化」、「スマート農業」、「グローバル化」を学習内容に組み入れ、最先端農業を実践的に学ばせる。		
	農業クラブ活動	農業クラブ活動の活性化	各種発表会・競技会において、府連大会、全国大会での入賞を目指した指導を行う。 日頃の学習成果発表の場として、農芸祭、学習成果発表会を成功させる。		
	担い手育成	関係機関と連携した担い手育成の推進	京都府立大学生命環境学部との連携協定を具体化する取組みを推進する。 府立高校特色化事業や京都府関係機関各種事業を活用し、将来の地域農業の担い手を育成する。		
寮務部	寮教育寮運営	寮生活と学習を密着させ、学習習慣を定着することによって学力向上を図る。また、これによって自己有用感の高揚ならびに自己実現に向けて努力する態度を育成する。	学習時間を活用し、学習習慣の定着を図るとともに、学習に対する主体性を育成する。		
		寮面談や日常でのコミュニケーションを通じて生徒の悩みに耳を傾け、個々の生徒の実態を把握し、共に考えることで人としての生き方や在り方を深く考えさせ、精神的な成長を促す。			
第1学年部	指導方針	生徒に適正な規範意識を持たせ、教科担当者が授業をしやすい雰囲気を作る。	適正な規範意識を持たせるために、SHRやLHRで丁寧な挨拶や礼儀作法を常に心がけるとともに、学年全体で意識させる。すべての教育活動で人権意識や規範意識の醸成を図るために、生徒一人一人の言動や行動についてのアンテナを高く持つ。		
		10月からの適切なコース選択ができるように、他の分掌・各コースと密な連携をする。	農芸高校の要である、コース選択を適切に行うために個人面談や生徒対象アンケート、日々の会話から生徒の希望コースを積極的に確認し、意図としないコース選択が生じないようにする。		
		保護者との連携を密にし、進路指導面や生徒指導面で理解を得る。	保護者と連携を密にするために、男子は帰省用紙および女子は週末帰省用紙を確認し、必要に応じて保護者連絡を行う。また、生徒が活動している様子を積極的に発信するためにあらゆるツールを効果的に活用する。		
		自主的な学習習慣の定着を目指す。	中学校までに十分な学習習慣が定着していないことが予想されるため、考査前に7限目を実施し、学習する癖付けを行う。各学期に教科担当者会議を実施し、教科横断的な情報共有を行い、不振科目の早期発見に努める。		
第2学年部	指導方針	各分掌間連携を密に行い、基本的な生活習慣及び社会人基礎力の定着を図る。	各コース・生徒指導部・寮務部などと生徒情報を共有し、生徒の指導における初動対応を迅速に行い、保護者とも協力して生徒の現状把握と進路を見据えた指導を行う。		
		生徒指導案件の未然防止と、質の高い学習空間の提供を図る。	生徒が安心して進路に向けての取り組みや資格取得にチャレンジできる雰囲気作りのために、真面目に取り組むことの意義や授業の重要性などについて、適切なタイミングで啓発のための訓話を行う。		
		自らの進路意識を育み、地道な努力を継続的に続ける力を身に付けさせる。	各コース・進路指導部・担任サイドから、その生徒の目的や適性に合った進路指導を早い段階から行っていく。また公務員志望者や大学指定校に必要な評定の話など、面談を通して見通しを持った進路選択を早期に提案していく。		
第3学年部	指導方針	社会から求められる人物の育成を目指す。	自主的な学習習慣の定着を図りつつ、『あいさつ・時間厳守・清掃の徹底』や『行動にメリハリをつける』、さらには『思いを言葉で伝える』など、社会人として当たり前前であることを当たり前前に行う人間へと成長を促す		
		保護者と連携した、生徒の満足度が高い進路指導を実践する。	自分の将来について、より高い志や目標を持たせ、生徒が希望する進路実現にむけて、保護者と連携を図り、適切な進路指導を進めていく。		
		人間性を育み、正しい判断力と適正な行動規範の定着を目指す。	体育祭、農芸祭等の学校行事、各コースでの取り組み、部活動などを通じて、社会人基礎力を身に付け、集団・個人としての自律・自立をはかる。		

